



国立国際
医療センター

国府台

International Medical Center of Japan

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療センター国府台病院長 松枝 啓
TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



[じゅんさい池緑地公園]

病院北側の道路を東へ歩き坂を下ると「じゅんさい池緑地公園」があります。
国府台病院玄関からは、約400m程です。
当公園の詳細は、「編集だより」にも紹介しています。

目次

◇市川市長との対談	2・3
◇新医師の挨拶 (救急科と消化器科)	4
◇救急科の紹介	4
◇成田検疫停留施設派遣報告	5
◇トリムバレーボール大会に参加して	5
◇手洗いで感染症から身を守りましょう	6
◇栄養一口メモ	6
◇歴史ある国府台病院	7

市川市長とのテレビ対談

～ 最先端医療で地域・国際貢献 ～

ためがい

千葉光行 市川市長と当院で先端医療を行っている 為我井第一病棟部長・内視鏡部長と 今村第二消化器科医長 とのテレビ対談が実現し、6月27日から一週間にわたりJCNケーブルテレビ「マイタウン市川」で放映されました。

対談は、はじめに市長の挨拶の後、市長の進行で両医師の紹介・専門分野の説明、国際医療センターの役割、国府台病院の地域における役割、市川市との協力体制、肝炎・免疫研究センター、国際的連携・協力など多岐にわたる内容となりました。

市長との対談から見た、市川市民の国府台病院に対する思い

冒頭に市長から国立国際医療センター国府台病院として平成20年4月1日にスタートしてから精神神経疾患、救急医療、一般診療部門における高度総合医療等の分野で市民に貢献してきているとの褒めの言葉を頂きました。

また、市民にとっては馴染みの深い国府台病院に対する要求や期待が大変高まってきていることなどが紹介されました。

筆者と今村医長は消化器部門の高度医療を担う者として対談に参加し、最初に国立国際医療センターは「癌の診療」、「救急医療」、「エイズ対策」、「肝炎対策」、「国際医療協力」等の政策医療を推進する役割を有しており、この国府台では、特に肝炎・免疫を主体とする診療や研究を実践していくことを紹介しました。

また、筆者自身の分野では、消化器内視鏡の役割は、かつての診断的役割から、今や診断から治療までを担う分野へと大きく進歩し、特に食道、胃、大腸癌の早期発見、治療においては最も重要な位置を占めるに至ったこと、そして、この部門は欧米をはるかにリードし日本が世界の指導的立場にあること、また、当センターにおける内視鏡治療手技は日本のトップレベルにあり、群をぬいて合併症が少なく、安全で根治的な治療成績であること、を紹介させていただきました。

今村医長は、肝臓癌に対するラジオ波治療の権威で、卓越した技術を有していることが紹介されました。近年、肝硬変を背景とした肝臓癌が増加している中で、このラジオ波治療は「切らずに治す」画期的な治療法で、そのスペシャリストが国府台病院の肝炎・免疫センターに赴任されたことは市川市の医療においては大変心強い印象を与えました。



(左から、今村医長、為我井部長、千葉市川市長)

市川市は「世界健康都市宣言」の街として広く国の内外で評価され、昨年はWHOの精神に則った保健都市連合国際大会が市川市で開催されました。千葉市長はこの大会の議長の要職を務められています。

一方、国府台病院の推し進める政策医療の一つが「国際協力」で、世界健康都市である市川市と連携することにより、飛躍的に世界の医療に貢献することができます。

すなわち、国府台病院の有する高度医療を時には海外の医療に役立て、あるいは海外の医療従事者を受け入れて技術教育を行うということも可能で、実際すでに複数の見学者を受け入れています。

国府台病院は、精神・神経センターから国際医療センターとなり、一般診療及び肝炎・免疫センターなどを中心に診療・研究する病院に変化したとはいえ、精神疾患の診療は継続して行くことが決まっていること、その意味では、一般診療科と併せて全国的レベルで見ても高度な精神疾患の診療が行えるナショナルセンターは国府台病院のみといえること、したがって、患者さんの「心と体」の両面から診療する、患者さんに優しい「国府台マインド」が発揮される病院に変わりつつあることが対談で紹介されました。

千葉市長との対談において、国府台病院に対する地域住民への高度医療の提供、市川医師会との病診連携、国際協力への参加等、その市川市民の期待の大きさが実感されました。これを真正面



先進的な消化器内視鏡治療
(為我井部長)

から受けて、地域医療を基本に十分に高度医療を展開すること、それを背景に国内から世界の医療に貢献していくことを約束し、最後に以上のことをよりダイナミックに継続していく上で重要となる人材の育成の必要性を確認し対談を終了しました。

〈 為我井 芳郎 〉



世界をリードするラジオ波焼灼治療
(今村医長)



新医師の挨拶

(救急科医長 長濱 誉佳)



本年5月に国際医療センター戸山病院より 当院の救急科に転任となりました長濱と申します。今年で12年目となる救急専門医です。何卒よろしくお願い申し上げます。生まれも育ちも鹿児島出身で、典型的な薩摩男子です。地元の大学を卒業後、しばし外科に在籍し、その間僻地や離島での経験も積んできました。その後救急医療の修練を積むべく、都立墨東病院、杏林大学などで武者修行を行いました。

救急の仕事は調整と調達！各診療科の下支えと各診療科の隙間を埋める作業が主な業務です。病院内のシステム充実を図りながら、地域に貢献できる医療を展開できればと考えております。

(消化器科医師 吉澤 大)



この度、消化器科に配属になりました吉澤 大と申します。もともとは、炎症性腸疾患に興味があり消化器内科へ進みましたが、僻地の医療に接する機会が多く、全身管理の必要性を感じ、統合診療系の勉強をしてきました。

国際緊急援助隊医療チームと救助チーム医療班に属しています。改めて消化器の勉強の機会を頂けて光栄です。よろしくお願い致します。

救急科の紹介

救急科医長 長濱 誉佳

当院の救急科のスタッフは、昨年就任された朝日 外来部長(救急部長)と本年5月から配属したわたくし 長濱の2名の専任スタッフと、各診療科のスタッフにより運営しております。

朝日部長のご尽力により、昨年度の救急患者総数は約4,300人、救急車搬入台数は2,000件弱の状態でした。市川市を中心に浦安市・松戸市などからも多数救急患者を受け入れております。

精神・神経センターの時分より精神科救急は日本でも有数の収容数で地域に非常に貢献していると思われま。

また、当院の役割として、主に市川市の診療圏の2.5次級(中等症から重症)の患者様を受け入れていく事が使命と思われまますが、同時に課題であるのも事実で、各科の協力と理解を頂きながらより地域に貢献できる救急医療のあり方を院内としても整備していければと考えております。

幸いな事に昨年度より特に内科を中心として診療医師スタッフ数が充実してきており、精神科ばかりでなく、一般科も相当数救急患者を受け入れてきております。今年度の4月から6月の3ヶ月間の実績でも大幅な救急車搬入台数の上昇を認めております。

そこで救急科として求められる主な業務内容は、調整と調達にあると考えています。救急でいらっしやった患者の皆様が円滑かつ迅速に専門医の診察が受けられるように道筋を付けたり、患者様の症状の内容に合わせて医療資源を確保する事が今後より重要になると考えています。

各診療科が診療しやすいように下支えを行っていく、しかしそれでもどうしても生じる隙間(中毒や熱中症など)に関しては、救急の専門の知識・経験・手技を用いて患者様の診療を適切に実践していければと考えております。まだまだ体制として未熟な点も多いと正直思っておりますが、現状に合わせて現実的な目線で、現場に臨めればと考えております。何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。



(救急科スタッフ)

成田検疫停留施設へ派遣されて

副看護師長 植松 雅子

成田空港における新型インフルエンザ機内検疫にて停留者となってしまった方々の看護に派遣されました。5月9日・10日・11日の3日間、成田のホテルに2泊3日で新型インフルエンザの患者さんに飛行機内で濃厚接触した方の健康チェックを行いました。国府台病院からは私を含め看護師3名、戸山病院からは看護師1名、医師2名が派遣され、停留者（慣れない言い方ですが患者さんではないのでこのように言うそうです）43名の健康チェック、タミフルやリレンザの投与、精神面の観察などを主に行って来ました。



(停留施設となった成田市内のホテルと報道陣)

私達医療班の他には、厚労省から派遣された方々が総勢40名近く活動していて、文字どおり汗水流して対応に追われていました。

停留者の方の中には外国人の方もいて、普段はうるさくて、どこにいてもよく分かるといわれている私が、無口になるという経験をし、英会話の重要性を感じています。

今回、貴重な経験をさせていただけて、本当に感謝しております。

トリムバレーボール大会に参加して

デイケア PSW 花島 梢

6月12日に「第41回トリムバレーボール大会」が、市川のスポーツセンターで開催されま

私たちの国府台病院からは5チームが参加しました。

総勢180名以上20チームが参加するこの大会は、精神障害を支援する地域の施設と病院を繋ぐ交流のイベントとして年に2回行われています。



デイケアでは、幹事のメンバーやスタッフを中心に3ヶ月前から準備・練習を行って来ました。今回は惜しくも3位という成績でしたが、いろいろなチームの試合を観たり、交流試合をするなど、充実した一日を過ごす事ができました。

今後もこうした活動を通じて、様々な施設と交流していけたらと思いました。

手洗いで感染症から身を守りましょう ～手指衛生向上ポスターコンクール開催～

感染管理認定看護師 根本 恵子



今年4月、海外および国内で発生した新型インフルエンザの流行で、不安を抱かれた方が多いと思います。そして正しい手洗いをすることが感染症から身を守ることに繋がると改めて認識された方もいらっしゃると思います。

このような時期に当院で初めて「手指衛生向上ポスターコンクール」を開催させていただきました。各病棟や外来・手術室の看護師がポスターを作成し6月19日から7月10日まで病院1階の中央廊下に展示しました。投票用紙を展示場所に設置し、入院患者さんや来院される皆様、職員に投票していただきました。

汚れた手で患者さんの前に立つ医療スタッフの姿が描かれているポスターを見て「この病院では、ちゃんと手を洗っているの？」と驚かれたかもしれません。

入院している患者さんは、病原体に対する抵抗力が弱く感染症が起きやすい状況にあります。当院の職員は、患者さんを守るためにいつも手をきれいにしています。そして患者さんや来院される皆様にも手洗いに協力していただき、一緒に感染防止に取り組みましょうという意をこめて、ポスターを展示しました。

おかげさまで、約500票の投票がありました。投票してくださった皆様方に、この場を借りて御礼申し上げます。



(第1位…28病棟)

栄養一口メモ

栄養係長 鈴木 知子

【夏野菜を食べましょう】

暑いこの時期は、夏野菜と呼ばれるみずみずしい野菜が夏バテを予防、軽減してくれます。

夏バテは、湿気や気温の急激な変化に体のリズムがついていけずに感じる「だるい、疲れやすい、食欲がない」といった症状をいいます。この時期の体のストレス、疲労、失われた水分等への対策には夏野菜に含まれるビタミン、ミネラル、水分が効果的です。

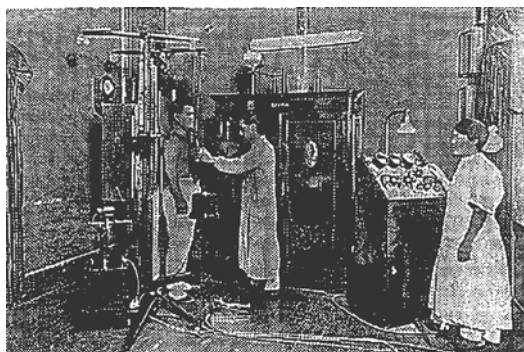
夏野菜はどれも色鮮やかで、赤色のトマト、黄色のかぼちゃやとうもろこし、緑色のオクラやピーマン、枝豆などがあります。どれも一年中スーパーに並んでいますが、夏野菜の美味しさはこの時期が一番です。安くて、栄養たっぷりの美味しい夏野菜を食べましょう。

●簡単おいしい知恵袋

- ①かぼちゃやとうもろこし、トマトを入れた夏野菜カレーは、食欲がなくても意外と食べやすいメニューです。
- ②夏野菜は生で食べるのが一番美味しい食べ方です。冷やし中華やサラダでお召し上がり頂きたいと思います。



“X線装置の国産の第一号機は国府台病院に納められていた”



今は何処の病院にも無くてはならない医療機器の一つであるレントゲン装置ですが、医療用国産第1号のX線装置は国府台病院に納められていたのです。

レントゲン博士がX線を発見したのは1895年(明治28年)ですが、日本では翌年の明治29年にレントゲン写真の撮影に成功していました。

その後、明治42年に島津製作所が作成した国産第1号のX線装置は、現在の国府台病院の前身である陸軍千葉

国府台衛戍病院に納入されていたのです。

(引用文献:株式会社島津製作所1994.11.11「レントゲン回顧」)

編集だより

編集長

“じゅんさい池”をご紹介します

ここは古くから沼があり国分沼とっていたそうですが、この沼にはじゅん菜が多く生息していたことから「じゅん菜池」と呼ばれるようになったようです。しかし、昭和の初期に沼が何度も干上がり、じゅん菜は絶滅したそうです。その後、地元からじゅん菜池の復元要望があり昭和54年に現在のじゅん菜池緑地に整備されました。細長い池の周囲約2.2kmは緑豊かな木々に囲まれ、遊歩道も整備されウォーキングコースとなっています。

四季折々の草花が楽しみ、春は梅、夏はツツジ、秋はキンモクセイ、もみじ、かえでなどの紅葉、冬は鴨などが飛来し、四季折々の自然が楽しめます。園内には茶室(登龍庵)があり茶会等も利用できます。池には鯉や水鳥がたちも見られます。休日に散歩してみませんか。

〈じゅんさい池へのアクセス〉

- ・JR市川駅から「国分操車場」行きバスで「じゅん菜池」下車
- ・北総鉄道矢切駅から徒歩約10分

